

研究者リーダーシップ・プログラム

「第4回 キャリアアップのためのアクションプラン」参加レポート

今回の研修では、講師の先生からお題をいただきそれに対してグループで対話をするという形式であった。目指すリーダーシップや自身の今後のキャリアについてグループで話す中で感じたのは、各々が研究あるいは分野全体を担う一人として、おおよそのプランと理想を持っているということだった。それぞれ専門分野が異なっていたため、具体的な点はそれぞれ異なるものの、大枠で見れば共通点も多かった。それは、それぞれがいま進めている研究を論文・本として成果をまとめ、また学会の中で後出の若手が育つように、あるいは学生が育つように、自身の分野を一層豊かなものに育てていきたいという点である。より良い持続可能な自身・学術の未来を目指して、全く異なる分野でも同じように考えているという点は、心強い思いがした。

その一方で、日々の業務に忙殺されている様子を(私だけかもしれないが)感じとった。この状況下でアクションを起こすことは、上記の理想を達成することにつながるのか、と疑問に思うところもある。だが、この状況はまさに、講義の中の「Will」「Must」「Can」の点が重なったところに自身が望むキャリア形成があるという考えと一致するのだろう。「Will」と「Must」はすでに手元にあるのだから、「Can」を阻害する課題を克服できるよう、自身の仕事の組み方を今一度見直してみたいと思う。

(中川朋美・名古屋大学人文学研究科 准教授)